



第108号

2012/12

トメ市

日本各地のLRT 路面電車に上下分離・公費投入の流れ定着、遅れる岡山

★2006年の富山ライトレール開業以来、日本では新設LRTはないが、札幌・鹿児島・熊本の各交通局で路面電車に積極的に公費を投入し、低床電車購入さえできない民間事業者でも上下分離する流れになっている。いまや新規取り組みが実現していない数少ない都市が岡山ということになりそう。

■札幌市交通局

あと380mで都心環状化できる札幌市電では、公営のため人件費が一人1050万円と高コストであったため、超低床電車の導入もできない状態だったが、11年かけて700万円程度まで低下。ようやく平成24年度に超低床車を1輛導入、平成26年度のループ化完成までにさらに2輛を導入する。ループ化費用は19億円。今後平成36年度までに29輛中16輛の低床電車導入に44億円、施設改修や利便性向上などに31億円の合計94億円を投資する予定だ。

■大阪市・堺市の阪堺電車

堺市の東西線新規LRT建設は、住民説明会まで行いながら反対市長の当選により頓挫したが、事業者から廃止希望の出ている堺市部分について、堺市は平成22年に10年間で低床電車の導入や路盤整備など総額50億円の支援を行うと決定した。低床電車は平成25年度に1輛導入。阪堺全線を290円から一律200円にする企画は成功、乗客は7%増加を達成。黒字の阪堺大阪市部分についても阪堺線の阿倍野から天王寺、なんばまでの「緑陰のみちを通るLRT」新規建設構想を発表。「グランドデザイン・大阪」構想の中では御堂筋の緑化をうたい、LRT緑化軌道建設も上げている。

■福井市の福井鉄道・えちぜん鉄道直通

福井市中心部の田原町駅では、福井鉄道とえちぜん鉄道が接する形になっており、直通運転LRT化が議論さ



れてきた。最近福井県は福井鉄道のえちぜん鉄道への乗入を、区間を短くして実施することを発表。低床車両の2編成購入費を含む、初期投資は19億2000万円に軽減できる。超低床電車のデザインを市民の投票で選ぶというイベントも実施され、オレンジ色に決定した。

■鹿児島市交通局、芝生軌道完成とウォーターフロント観光路線延伸表明

鹿児島市ではウォーターフロント地区と、鹿児島中央駅、天文館地区との一体化を促し、回遊性向上が見込まれる鹿児島市電の観光路線新設をめざす。事業費は軌道敷設、低床電車購入費(4両分)などの整備で27億~42億円。同市では昨年路面電車の芝生軌道化が完成。街の「顔」になった軌道緑化は併用軌道全線8.9kmの緑化が完成。総事業費は11.5億円。軌道敷緑化は目を楽しませるだけでなく、ヒートアイランド現象の緩和や沿線騒音の低減、電車の乗り心地向上にも効果をあげている。

事務局 〒700-0823 岡山市北区丸の内1-1-15(禁酒会館3F) TEL&FAX 086-232-5502

E-mail racda_okayama@ybb.ne.jp

RACDA

検索

NPO法人 公共の交通ラダ
RACDA詳しくは http://wiki.livedoor.jp/racda_okayama/ まで